

東京後楽ロータリークラブ週報

The Rotary Club of Tokyo Koraku Weekly Report



インスピレーションになる

「ロータリーを味わおう！！」

2018年～2019年度 会長
藤田 哲朗

「インスピレーションになろう」

2018年～2019年度 国際ロータリー会長
バリー・ラシン

会員増強・新クラブ結成推進月間

2018年8月21日発行(No. 876)

第876回 例会

「会員増強について考える」

CLUB NEWS

- ◆ 8月7日(火) ガバナー公式訪問が無事終了し松坂地区ガバナーから『RI テーマ「インスピレーションになろう」をご理解いただき、会員の皆様が楽しくロータリー活動に励まれますことを願っております。』とのお礼状が届いております。
- ◆ 8月1日(水)、サラさんはカナダへ帰国 しました。



成田空港でお別れの記念撮影

前回例会

第875回例会

「ガバナー公式訪問」

松坂 順一 地区ガバナー

出席状況

第875回例会

出席 34名 欠席 6名

ビジター 7名 ゲスト 1名

松坂順一地区ガバナー(東京葛飾東)

大野利美知北分区ガバナー補佐(東京上野)

園田経夫北分区幹事(東京上野)

小原武夫地区大会実行委員長(東京練馬西)

井口健二地区大会実行副委員長(東京練馬西)

林一好氏(東京本郷) 菊田健氏(東京中央)

ジャン・イーウェイさん(米山奨学生)

出席率:89.47% 前例会修正後:92.11%

ニコニコBOX

大野北分区ガバナー補佐・園田分区幹事様:本日は松坂ガバナーに随行して参りました。本年度の北分区の活動にご協力頂きます様お願い申し上げます。

小原武夫様、井口健二様(地区大会実行委員会):来年2月に開催されます地区大会のご案内に伺いました。皆様のご来会を会員一同お待ちしております。ご支援、ご協力宜しくお願い致します。

藤田会長:松坂ガバナー、大野ガバナー補佐、園田分区幹事、当クラブへようこそいらっしゃいました。宜しくお願い申し上げます。

大牟田会員:8月1日、サラが無事帰国しました。また来年遊びに来るそうです。

尹会員:今日は松坂ガバナー公式訪問デーです。朝から緊張しています。先の会議で色々な事を聞いて、とっても勉強になりました。国際奉仕委員長として、これから頑張りたいと思っています。宜しくお願い申し上げます。

住田(光)会員:70才代最後の誕生日祝。感謝。福田会員:誕生日のお祝いを頂き、有難うございます。

志熊会員:誕生日を祝って頂き、有難うございます。本多会員:誕生日をお祝いくださって、有難うございます。昨日、45才になりました!!

中谷内会員:40才最後の誕生日を迎えました。

お茶飲み会:

ミリオンマイルズ:2,170円

本年度合計:261,618円

例会案内

8月28日 休会

9月4日 「クラブ協議会」

20周年記念事業について

9月11日 卓話 地区 RYLA 委員会 委員

岩井 昭治 氏

TEL: 03-5940-3355 FAX: 03-3947-4010 E-Mail: koraku@mint.ocn.ne.jp

例会 毎週火曜日12時30分 / 東京ドームホテル 電話: 03-5805-2111

事務局 〒112-0014 文京区関口2-10-8 藤田観光(株)別館内

会長 藤田 哲朗 / 幹事 菊池 修一郎 / 会報委員長 戸部 昇

URL <http://korakurotary.com>

第872回 例会 卓話 「歴代会長に聞く①」

住田光生 7代会長

7代目会長を務めたのは平成17～18年で幹事は前会長の畠山さんです。大変精力的にやって頂き改めて御礼申し上げます。今年度RIの標語はインスピレーションです。この年度は「Service above self」要するに奉仕を一生懸命やれということだと思っています。Serviceという言葉は日本ではあまり高貴な言葉と思われませんがキリスト教文化では非常に高貴な言葉です。神への奉仕から始まり、Serviceという言葉非常に大事にします。



会長当時を振り返ると入会して6年余りで、私自身ロータリーをあまり知りませんでした。今のクラブの雰囲気とは異なり、非常にぎくしゃく感がありました。私はロータリーが百数十年に存続しているのはルールが非常にしっかりしているからだと思います。ロータリーを知ることは4つのテストにも書かれた理念というものも有ります。私の職業習慣もありルール遵守することを念頭におきクラブ運営をしました。ロータリーを理解するため、社会的に著名なロータリアンの卓話をプログラム委員長の大牟田さんと相談し、米山記念奨学会の理事長の島津久厚さんをお願い致しました。薩摩の島津家の分家でロータリー歴50数年の方でした。そして私の人生で大変恩義を受けた山種証券の社長会長を歴任し山種美術館館長を務めた山崎豊治氏です。山崎豊治氏は日本青年会議所の会頭をされた方です。両氏より感銘深い話を頂きました。そしてロータリーのルールです。私は入会から6年間ルールブックを読んだことはありませんでしたが、大変詳細にできております。皆さんも是非お読みください。これはエピソードですが設立から6年ほどはクラブに和気あいあいというのは少なく、後楽創設に尽力した実力者の一存によって全てが決まる場面もありました。会長を選ぶにもルールブックでは会長は立候補制です。皆で話し合っ合意というそういうのが良いと思いますけれどもルールの上では立候補される方はいませんかということは何かなければいけません。私はそう思います。私は会長方針として、「ロータリーを良く知ろう」そして「ルールを確認しよう」の2つの柱に上げました。

私のロータリー所感を申し上げます。皆さんが社会で活躍して社会的地位、経済的、財政的な地位を築かれています。さらに飛躍するには広く教養を身に付けなければ成りません。そして人の輪を広げることが必要です。これは長與さんが言っているようにロータリーは格好の場で、社会人として学ぶ場ですから非常に良い場であると思います。そしてロータリー全体の会ではよくノブレス・オブリージュ (noblesse oblige) という言葉が出てきます。これはフランス語で高い身分の人の義務ということです。我々は貴族でもないし身分も高くありません。身分が高い低い平等に反します。弱者と言ったら失礼に当たりますが、思いやりとか奉仕をするというロータリーに期待されている言葉ではないかと思えます。是非皆さんも奉仕の精神を向上し励んで頂きたいと思えます。

最後に私事も含めて皆さんに期待です。実は来月の14日79歳になります。クラブでは最年長ですが、今しばらく頑張ろうと思っています。話は変わりますが戦前生まれの日本の長男は親の後を継ぐと言う宿命的なものがありました。私は好きで親の後を継ぎました。父は昭和2年職業会計人制度で第一回計理士に成り、日本最初の計理士として活躍しました。戦後アメリカの占領政策の一環として公認会計士制度ができました。公認会計士の第一回になって否が応でも私は後を継がなければならなかった訳です。子供の頃から学生の頃から思い、国家試験登録をして最年少で合格し54年目になります。事務所も創設から91年になります。住田直子会員の時には100周年を迎えることになるのではないかと思います。この間、栄える会社や滅びる会社、成功した人、世の中でつまづいた人と色々なケースを見ました。先ほど申し上げました山種の山崎豊治さん山種証券というのは4大証券メガではないですがものすごい力を持っていましたが一瞬のうちに潰れてしまった。皆さんにアドバイスしたいのはやっぱり前向きに自分自身を高めようと日々愚直に実直に頑張り励むしかないと思います。350年続いた老舗の女将さんが私に何時も言っていました。「商いというのは諦めるとかそういった意味

です。飽きないで商いをするのだ」と何時も言っていました。私は10代の頃から新渡戸稲造さんの武士道という本を愛読しており今でも座右の書としています。侍の魂と言う様な本ですが、その当時は侍かもしれません。今日は女性の活躍が素晴らしく、例えば日本公認会計士協会の会長は関根愛子先生女性です。そして日本眼科医会は白根雅子先生・東京都眼科医会は福下公子先生です。これからは是非女性の方も侍の本でなくて、人間の心の本だという含みで是非お読みください。お勧めします。本の中でもっとも自分自身も気をつけていることがあります。東京後楽ロータリークラブの皆さんにも是非心に入れて頂きたい。それは「礼節」ということです。人間社会では非常に大事です。自分一人で頑張ろうと思っても出来ません。やはり誰かが引いてくれないと機会を与えてくれないと絶対人間は成功しない。そういう面では礼節とか義・勇・仁とか色々武士道を書いておりますが。私は東京後楽ロータリークラブの諸君は「礼節」を身に付ける事を是非お願いしたい。私のあだ名は、暴走老人と言ひ、色々なことを、色々なところで言ひます。でも私の今の立場だと本当のことをしっかり勇気を持って言うというのが私の立場だと思っています。皆さんと親しく、皆さんにもっとより高い人間になってもらいたいと思っております。もし暴走老人が敢えて苦言を呈したらお許しいただきたいと思ひます。どうぞロータリアンとしてのプライドを持ち自らの人生を高めるためにも充実したロータリー活動に励まれることを期待します。

大牟田文哉 15代会長

15代目の会長を務めました大牟田文哉です。スローガンは「和を大切に」です。その年度の特徴は本郷ロータリーの呼びかで、東日本大震災支援少年野球大会を親クラブである東京小石川ロータリーと上野ロータリーで行いました。4クラブで合同例会を東京ドームホテルで開催しました。少年野球大会はディズニールランド内でウェルカムパーティーをしたりドーム球場で開催しましたので、各種メディアに取り上げられました。それから志熊君に米山奨学委員会に出向をお願いし、その後米山・クラブ奉仕の委員長を経験されました。私は、現在地区の職業奉仕委員長を務めておりますが、これは会長時代より地区に来なさいとお誘いを受けており、ロータリーの根幹である職業奉仕を以前から学たいと思っていたからです。職業奉仕の基本は自分自身に倫理観の問いを行うことであり、また自分自身の気品、品格を向上させるためのいい経験になっております。ミスターロータリアンといわれるべき方がいらっしゃいますがそうなりたいと思っております。職業奉仕の理解しやすい言葉が2・3ありますのでご紹介します。



職業奉仕とは、我々がその職業に於いて、また職業を通して、他人に幸福をもたらすことであり、他人に奉仕をすることである。ロータリーは倫理運動の立場から、愛情の世界の生きる心、即ち世のため人のための心をもって職業を営んでいると、結果として信用という保護膜に包まれて、長期的に安定した利潤を着々と獲得する強靱な体質の企業を作り上げることが出来るのであります。その原理の総体を職業奉仕と呼んでいます。

2年前のセミナーの講師の、福岡西ロータリークラブの廣畑富雄パストガバナーは「相手のためになる職業を高い倫理性の元で営み、長い目で見ると信用を増し、企業の繁栄、自分の幸福に通じる」と言っています。

シェルドンの奉仕の概念に通じるものです。シェルドンは1921年エジンバラ大会でのスピーチでこうも言っています。「企業が正しくなるための秘訣は、個人が正しくなること。企業づくりは人づくりにあります。人生と奉仕の法則の調和を図りましょう。」これは次のメッセージに繋がります。

1974年RI会長ウィリアム・ロビンス氏はロータリーの価値とは「国際ロータリーやクラブの規模の大小や会員数の多寡（たか）ではない。そのクラブが如何なる人を育てたかによって測られる」と言っています。こ

これはスイスの片田舎での話でありますがお婆さんが箒（ざる）の中に羊の毛を入れて、それを綺麗な小川の流りに浸して洗っていました。そこへ神父さんが通りかかりました。『お婆さん。貴女は、毎週日曜日に教会に来て私の話を聞いているから、さぞかし、善い話を沢山覚えただろうね。』と言いました。するとお婆さんは、『ところが神父さん。幾ら善い話を聞いても、すぐに忘れてしまいますから、何も覚えていませんよ。でも、私は、それでいいと思いまよ。神父さん。この箒の中を見てください。箒の中には、ドンドン水が入って来ますが、すぐ箒の外へ流れ去って行きます。しかし、そのために箒の中の羊の毛は、こんなに綺麗になっているではありませんか。私も神父さんの話を聞いては忘れ、聞いては忘れてしまいますが、それで私の心も少しは綺麗になっていると思えますよ。』というのであります。この話は、一体何を意味するのか、と申しますと、聞いては忘れ、聞いては忘れながら、水で洗われる箒の中の羊の毛のように、自分自身が磨かれていく、心が磨かれていく、ということの意味しているのであります。私達は、忘れることを怖れてはなりません。出来るだけ沢山の人の話を聞き、沢山の本を読み、そして、聞いては忘れ、読んでは忘れてしまうものですが、しかし、何回も何回も、聞き忘れ、読み忘れながら、次第々々に心が磨かれてロータリーが身に付いていく、奉仕の心が身に付いていくのです。これが知恵というものです。単なる知識ではありません。2580地区の職業奉仕の先導者、佐藤千寿パストガバナーは「ロータリーの奉仕活動の本質は倫理運動である、倫理運動は人間関係を改善する、いわゆる間柄の美学である」よく例会は人生の道場であるといわれます、また自分自身の会社経営の情報源とも言われます。それは会員の方々が経営のプロだからです。自身の経営の参考になることが多く見受けられます。私はその点いろいろな経験をさせていただいております。小石川の新田さん・名村さん当クラブの横田・竹腰・武居・先ほど卓話をされた住田さん。経営者としてのあり方等成功されている方々が多くいられるロータリーですから地区に出ても、素晴らしい方々が多くいらっしゃいます。吸収できるかどうかは個人差があります。それは、礼儀・相手を敬う心がないと吸収できませんし、教えてはくれません。横田さんのご紹介で、現在長唄を習い始めて10年が過ぎてます。最初は難しくて馴染めません、横田さんにこぼしておりましたが難しいからいいのよ、会社経営も同じよと、発破をかけられ現在に至っております。師匠の吉住小三代さんは人間国宝の能の梅若家が本家で梅若玄祥（56世実）さんが弟で、その息子さんが藤間流宗家勘十郎（藤間流三世藤間勘祖と観世流能楽師の五十六世梅若六郎の長男）。吉住流のお弟子さんも各界の方々が多く豊田章一郎さん等がおいでになります。

話は変わります。青少年交換留学生サラが、我が家に生活を共にして3ヶ月半になります。日本語も日常会話は完璧になり、何より素晴らしいのは学校にて、中学生に英語を教える機会を与えられ、非常に好評であったことです。この経験により彼女は教師になる将来の目標と夢ができてきました。また志熊・石毛ファミリーとテニスに盛んに行き、部活にも積極的に参加をしています。20日に参りますので声を掛けてあげてください。また25日に石毛さんと大牟田で送別会を行います。サラの希望で「お寿司」「フランス料理フォアグラ」どちらがいいと聞きましたらフォアグラでしたので、なじみの大塚の「ピストロジェイエ」で行ないます、皆さんもよければ、私にお声掛けくださり参加ください。

最後に当クラブに地区および親クラブからの要請をお話します。ご存知の通り、小石川ロータリーの野生司さんが、2020～2021年の地区ガバナーになります。その時に地区の役員の方々の要請があると思います。どの役職が振られてくるのか解りませんが、それなりの覚悟がいると思われまます。またその年度にガバナー補佐を輩出しなければなりません。この点につきましては皆さんにご理解をいただきたいのですが会長経験者で、地区のことも良くご存知の方、私が思いますに長與さんが適任だと思います。皆さんのご理解をいただきたいと思ひます。またその場合の地区幹事は長與さんに任命をお任せしたいと思ひます。正式には中村さんの年度の理事会等で決定いただきたいと思ひています。